

【私的制裁】 第21回

いじめが文部科学省の問題行動調査で昨年度、過去最多の22万4540件になった。学校での〈暴力〉であるいじめや体罰は、戦前の軍隊の私的制裁が影響しているのではないか。暴力の問題を解決するには、それがどのようなものであり、どのような生活や社会の中でおこなうのかをみなければならぬ。

制裁方法は、精神的苦痛を与えるものとして、(1)他人の秘密をあばく、(2)罵倒侮辱、(3)皮肉、(4)いやみなど。肉体的苦痛を与えるものとしては、(1)殴打(靴に土がついているなど何かとビンタするなど)、(2)こぶしで突く、(3)相互に殴打、(4)重量物を捧げさせたり負わす、(5)長時間不動の姿勢、早馳、据銃、(6)武技の悪用など。物質的苦痛は、(1)兵営外、酒保における飲食の強要、(2)物品の贈与を強要、(3)金銭の借用の強要、(4)日用品の借用の強要、(5)映画館、劇場、温泉などに行きながら支払いを強要などである(文献①191頁、文献②85頁)。自分で手を下すのではなく、同僚などを互いにビンタさせるなどはないへんな



苦痛であった。これらの方法は、体罰やいじめ、教師の「指導」の中に引き継がれてはいないだろうか。

私的制裁は、古参兵から新年兵に行われた。新兵が「地方」(一般社会)で持つている価値観(学歴、職歴など)を徹底して破壊し、命令と服従の「戦う道具」にするための「愛の鞭」とされた(①93頁)。

私的制裁は、軍隊の結束を根本から崩すものとして「根絶」もはかられたが(①186頁以下)、軍隊以外で生きようのない古参兵が増えるにつれ、陰惨化していった(①185頁)。

これを、上からの抑圧を下に委譲したとみる見方(丸山真男)や、戦場でのストレスの耐性をつけるためとみる見方(伊藤桂一)がある(②88頁)。

(研究部・加藤聡一)

参考文献

- ①大濱徹也『天皇の軍隊』(講談社学術文庫) 講談社、2015年(原本1978年)。
- ②河野仁『玉砕』の軍隊、(生還)の軍隊、日米兵士が見た太平洋戦争(講談社学術文庫) 講談社、2013年(原本2001年)。